

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	人体の構造と機能	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	医療従事者の一員である視能訓練士に必要な人体の構造と機能の基本的事項を学習する。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	医療従事者の一員である視能訓練士に必要な人体の構造と機能の基本的事項を学習する。 また、眼科受診者は、乳幼児から高齢者まで多岐にわたるため、幼年期から高齢期まで、加齢によってどのような機能や心身の変化が生じるかについても系統立てて学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の器官、組織の構造と機能の基礎的事項を理解する。 ・人体の各部位の発生と発達の基本的事項を理解する。 ・人体の生理と幼年期から高齢期までの加齢現象について理解する。
授業担当者	☆佐野 智久	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	基礎医学(建帛社)	
評価方法	期末試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	総論(人体の機能と構造とは)、目の解剖	人体の構造と機能について学ぶ。
2	感覚器	感覚器について学ぶ。
3	循環器	循環器について学ぶ。
4	腎臓・泌尿器科	腎臓・泌尿器科について学ぶ。
5	肝臓・胆嚢・すい臓	肝臓・胆嚢・すい臓について学ぶ。
6	消化管	消化管について学ぶ。
7	生殖器	生殖器について学ぶ。
8	内分泌	内分泌について学ぶ。
9	神経系総論	神経系総論について学ぶ。
10	中枢神経・末梢神経	中枢神経・末梢神経について学ぶ。
11	呼吸器	呼吸器について学ぶ。
12	運動器	運動器について学ぶ。
13	心身の発達と加齢① (幼年期から青年期)	人体の構造と機能について学ぶ。
14	心身の発達と加齢② (成人期から高齢期)	人体の構造と機能について学ぶ。
15	まとめ	テストを行う。

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	解剖機能発達基礎演習	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視能訓練士に必要な解剖・機能・発達を模型などを使い理解を深める。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	視能訓練士に必要な解剖・機能・発達を模型、作図、検査を用いたグループ演習行うことによって理解を深める。
授業回数	8回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位(15時数)	眼球の基本的な解剖学的名称を覚えて記載することが出来る。 発達心理検査の意義を説明できる。 加齢による心身の現象を理解する。
授業担当者	☆佐野 智久 太田 陸	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂)	
評価方法	レポート提出	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	演習の進め方	眼の模型などを使い、実際にどのように演習を進めていくか、確認していく
2	眼の作図	教科書、眼の模型などを使い、眼の作図をしていく
3	視覚の発達	眼の発達を教科書などを使い理解していく
4	視覚の発達	視覚の発達を教科書などを使い理解していく
5	解剖まとめ	眼の全体の構造を教科書、模型を使い、理解を深める
6	疑似体験	視覚の悪い状態を体験して、どのように見えるのか学んでいく
7	解剖のまとめ	解剖、視覚の状態を教科書、模型を使い理解を深める
8	レポート作成	眼の解剖、発達を総合的まとめて、レポートに仕上げる

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	こども発達学	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	こどもの心身の発達を理解し、視能訓練士として、その年齢の心身の発達に適した検査・訓練方法を選ぶことができる基礎理論を学ぶ。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	斜視弱視患者は、主に乳幼児である。検査訓練を担う視能訓練士は、こどもの心身の発達を理解し、発達や心理に合わせた検査や訓練を行う必要がある。年齢の発達を理解し、患者や保護者との円滑な人間関係を築くことができる基礎となる理論を学ぶ。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位	<ul style="list-style-type: none"> ・成人とこどもの違いを説明できる。 ・出生から成人するまでのこどもの心身の発達を理解する。 ・積極的にこどもとコミュニケーションをとることができる。 ・こどもの心身の発達に適した対応を考えることができる。
授業担当者	杉山有美	
実務家教員	○	幼稚園・保育園における幼稚園教諭及び保育士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんから学ぶ「乳幼児保育」の実践力 古橋紗人斗(保育出版社) ・乳幼児保育演習ブック 松本峰雄(ミネルヴァ書房) ・保育内容総論 大豆生田啓友(ミネルヴァ書房) 	
評価方法	授業態度・出席率・レポートを総合的に評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	乳児の発達(0～1歳)	・乳児に生まれ持っている能力について ・ポウルヴィの愛着理論 ・身体的発達について学ぶ
2	乳児の発達(1～2歳)	・基本的生活習慣の獲得 ・身体的発達 ・心と言葉の育ち ・自我の発達について学ぶ
3	乳児の遊び	・身体的発達 ・情緒的発達 ・社会性の発達について学ぶ
4	乳児の玩具	・発達に合った玩具 ・玩具作り
5	子ども理解	・子ども理解とは ・実習で使える教材づくり
6	幼児の発達	・身体的発達 ・情緒的発達 ・社会性の発達について学ぶ
7	幼児の遊び	・こどもの興味のある遊び ・伝承あそびとは ・こどもの遊びを実際に行い楽しさを知る
8	子どもとのコミュニケーションの取り方	・言葉以外のコミュニケーション ・こどもの思いを汲み取り代弁することの大切さ ・子どもとの話し方について学ぶ

科目名	臨床医学概論	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	人体の構造、生理機能、病気のメカニズムなどの医学を学ぶ。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	人体の構造、生理機能、病気のメカニズムなどの医学をできるだけ幅広く学ぶ。医療従事者として以外にも、普段の実生活で健康に過ごしていく上で必要な知識や興味深い事柄を授業で紹介していく。 解剖学での知識を十分に持った上でビデオ等の教材を使用し更に理解を深める。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位(30時数)	医療従事者として、実務上必要な知識や医療の背景の理解を深めることを目指す。
授業担当者	☆佐野 智久	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	基礎医学(建帛社)	
評価方法	筆記試験	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	外科疾患	外科で扱う疾患を学ぶ
2	麻酔、臓器移植	麻酔、臓器移植について学ぶ
3	呼吸器、循環器	呼吸器、循環器疾患について学ぶ
4	消化器	消化器疾患について学ぶ
5	肝臓、胆のう、膵臓、脾臓	肝臓、胆のう、膵臓、脾臓の疾患について学ぶ
6	乳腺、内分泌	乳腺、内分泌疾患について学ぶ
7	泌尿器科	泌尿器科疾患について学ぶ
8	整形外科	整形外科疾患について学ぶ
9	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科の疾患について学ぶ
10	眼科	眼科の疾患について学ぶ
11	小児診断	小児の診断について学ぶ
12	小児特有の疾患	小児特有の疾患と治療について学ぶ
13	高齢者について	高齢者の診断、特有の疾患と治療について学ぶ
14	産科、婦人科	産科、婦人科でおこなわれる診断について学ぶ
15	画像診断	画像診断について学ぶ

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	病理学	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・疾患の理解を深めるために、分子・細胞レベルでの病態・生理について学ぶ。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・視機能療法の実践に必要な各種疾病の病因、病態、病理を理解するとともに、各疾病の病態や診断の把握に必要な基本的知識を学習するとともに回復の過程を理解する。 ・代謝異常症、循環障害、炎症、免疫、腫瘍などを中心に学習する。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位	・人体の組織、細胞障害とその修復について理解する。 ・代謝障害、循環障害、炎症、免疫、腫瘍について理解する。 ・各臓器の主な疾病とその症状について理解する。 ・国家試験レベルの事項とともに、チーム医療を担う医療人としての基礎的能力を習得する。
授業担当者	☆佐野 智久	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂)・図解メディカルサイエンスシリーズ よくわかる病理診断学の基本としくみ(秀和システム社)	
評価方法	筆記試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	病理の概論	病理学とはなにか?ひとはなぜ病気にかかるのか?
2	異常とは	遺伝子異常と発生発達異常
3	代謝障害 I	細胞の障害と修復のしくみ、代謝障害 I
4	代謝障害 II	代謝障害 II、循環障害
5	炎症	炎症
6	腫瘍	腫瘍とはなにか、癌の病理診断
7	病原体	病原体が身体を侵し死に至らしめる機序(インフルエンザ、エイズ等)
8	まとめ、テスト	まとめ・振り返り、テスト

科目名	薬理学概論	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・基本的な薬剤の作用機序と効果、および副作用を理解し、臨床に役立てる。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・疾病の治療には、手術などの観血的治療法以外に薬物治療が行われる。また、眼科では検査のための薬剤も投与される。 この講義では、視能訓練士として必要な基本的な薬剤の作用機序と効果、および副作用を理解することを目標とする
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位	・視能訓練士において業務上必要な、アトロピン、シクロペントレートなどの点眼剤の知識について確実に習得する。 ・眼科治療薬、検査薬、機能訓練で使用される薬の薬理作用、副作用、使用禁忌について理解することができる。
授業担当者	☆森脇 辰哉 太田 陸	
実務家教員	○	総合病院・調剤薬局における薬剤師としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂) 視能矯正学 第3版(金原出版)	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	法律と概論	医薬品と法令、薬物の作用機序と薬理作用、薬物動態
2	交感神経	交感神経刺激薬、交感神経遮断薬(ジピペフリン、チモロール)
3	副交感神経	副交感神経刺激薬、副交感神経遮断薬(ピロカルピン、アトロピン)
4	緑内障と白内障	抗緑内障薬、抗白内障薬
5	散瞳と縮瞳	抗コリンエステラーゼ薬、散瞳薬と縮瞳薬
6	炎症	抗炎症薬、抗アレルギー薬、検査薬、麻酔剤、造影剤、角膜保護薬
7	感染	感染症、抗生物質、抗ウイルス薬、抗真菌薬、滅菌、消毒法
8	まとめ	各検査薬、機能訓練に使用する薬

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	健康と保健	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	医療人として必要な知識と自己の健康のセルフコントロールができるようになる。
学年	1	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	健康及び疾病の予防の基本的知識を学ぶ。また、自らの健康と疾病の予防についても理解を深める。健康の維持、重篤な疾病の予防として救急法についても学ぶ。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の健康に関心を持ち、理解を深める。 ・医療従事者として、人々の健康増進や健康回復を支援するための基礎知識を修得する。
授業担当者	三嶋秀子	
実務家教員	○	総合病院における看護師・精神保健福祉士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	保健と健康の心理学 ～ポジティブヘルスの実現～ (ナカニシヤ出版)	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	授業概要説明 感情と健康のメカニズム
2	認知と行動のメカニズム	精神機能 認知と行動のメカニズム
3	健康と感情について	健康と感情 ストレスについて(怒り・攻撃)
4	うつ・不安について	うつ・不安 社会的感情と健康行動
5	心的外傷体験と健康	心的外傷体験と健康 生活習慣の見直し(喫煙・飲酒・食行動)
6	睡眠と身体活動	睡眠と身体活動 女性の健康
7	健康への予防的アプローチ	健康と医療 健康への予防的アプローチ(ポジティブヘルス)
8	救急時の対応試験	救急時の対応 試験

科目名	視器の解剖・生理・病理学	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視器の解剖・生理・病理学の基礎を習得する。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	眼球ならびに眼瞼・外眼筋・涙器などの解剖・生理・病理について学習し、眼科学の基本を習得する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位(30時数)	眼球周辺の付属器の機能を知って、眼球が感覚器として維持している仕組みを理解する。 視覚は眼と脳とが密接に関係をもちながら機能していることが判断できる。 光を透過させる眼球内容物について把握できる。 眼科疾患の病態を解剖・生理学の知識と結びつけて理解できる。
授業担当者	星野 貴大	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂) 標準眼科学 第13版(医学書院)	
評価方法	筆記試験	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	視器の構成、眼瞼	視覚器の構成、眼瞼の解剖、生理について学ぶ
2	角膜、結膜、強膜	角膜、結膜、強膜の解剖、生理について学ぶ
3	ぶどう膜	ぶどう膜の解剖、生理について学ぶ
4	房水、隅角、水晶体	房水、隅角、水晶体の解剖、生理について学ぶ
5	硝子体、網膜	硝子体、網膜の解剖、生理について学ぶ
6	涙器、眼窩、外眼筋	涙器、眼窩、外眼筋の解剖、生理について学ぶ
7	視神経	視神経の解剖、生理について学ぶ
8	視路と血管系	視路と血管系の解剖、生理について学ぶ
9	神経系	神経系の解剖、生理について学ぶ
10	視器の発生	視器の発生について学ぶ
11	解剖の復習	視覚器の解剖の見直し
12	視神経の復習	視神経の解剖、生理の見直し
13	神経の復習	眼に関わる神経の解剖、生理の見直し
14	まとめ	視器の解剖・生理・病理学のテスト
15	テストのふりかえり	視器の解剖・生理・病理学のテストのふりかえりと復習

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	視覚機能学基礎	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視覚機能検査の基本的理論を学ぶ 視覚検査の基本的な検査、測定方法を学習する
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	視覚機能検査の基本的理論を系統的に学ぶ。視力、視野、色覚をはじめとする視覚の情報処理過程の基本的理論と視覚機能検査について学習する。検査・測定方法の基礎理論を習得し、疾病と障害との関連を学習する。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位(15時数)	見える仕組みの概略を説明できる。 簡単な視力測定の方法が理解できる。 視覚検査に必要な基礎計算が出来る。
授業担当者	山村 慈	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂)	
評価方法	筆記試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	形態覚とは	尺度と評価法
2	視力	視力の基本的な理論を学ぶ
3	視力検査法①	視力検査法の基本的な理論を学ぶ
4	視力検査法②	視力検査法の基本的な測定を学ぶ
5	視力に影響する因子	視力に影響する因子を学ぶ
6	小テスト	小テストにて知識の確認
7	テストの振り返り	テストの振り返り
8	検査を实践	実践にて理解を深める

科目名	視覚機能学基礎演習	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視覚検査の基礎の視力、視野、色覚を学ぶ
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	視覚機能検査機器の原理と操作を学習する。グループでの演習により検査・測定方法の基礎理論と基本的技術の習得を目標とする。また、障害を総合的に検出することを演習し、技術を習得する。適宜演習課題を指示する。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位(30時数)	各種視覚機能検査機器の原理の概略が説明できる。 機器を用いて検査・測定ができる。 総合的に障害を検出できる。
授業担当者	☆星野 貴大 山村 慈 太田 陸	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂)	
評価方法	レポート提出、実技テスト	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	視力検査	視力検査の基礎を学ぶ
2	視力検査	遠見、近見視力検査を学ぶ
3	視力検査	小児の視力検査について学ぶ
4	色覚検査	仮性同色表、色相配列法について学ぶ
5	色覚検査	アノマロスコープについて学ぶ
6	静的視野検査	静的視野検査を実際に体験してみる
7	静的視野検査	静的視野検査の設定を学ぶ
8	静的視野検査	静的視野検査を実際に施行してみる
9	動的視野検査	動的視野検査を実際に体験してみる
10	動的視野検査	動的視野検査の設定について学ぶ
11	動的視野検査	動的視野検査を実際に測定してみる
12	動的視野検査	動的視野検査になれるように何度か測定してみる
13	視野検査の復習	動的、静的視野検査を一連の流れで検査してみる
14	実技テスト	視力、色覚、静的・動的視野計の中から実技テストを実施
15	振り返り	視力、視野検査、色覚検査の振り返り

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	生理光学	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視能訓練士として必要な屈折矯正における調節、眼鏡、コンタクトレンズなどの知識を身につけることを目的とする。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	眼球の光学的な役割と理解を深める。屈折矯正に必要な、調節、眼鏡、コンタクトレンズ、眼内レンズ、屈折矯正術などについて学習する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	<ul style="list-style-type: none"> ・眼球光学系を説明できる ・近視の定義と症状を説明できる ・遠視の定義と症状を説明できる ・乱視・不同視の定義と症状を説明できる ・老視の定義と症状を説明できる
授業担当者	太田 陸	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学第2版(文光堂)、視能学エキスパート 光学・眼鏡(医学書院)	
評価方法	筆記試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	光の性質	光の性質について学ぶ。
2	レンズの光学	球面レンズ、円柱レンズについて学ぶ。
3		レンズの収差、パーゼンスについて学ぶ。
4	プリズムの光学	プリズムの構造、プリズムジオプトリーについて学ぶ。
5		レンズのプリズム効果について学ぶ。
6	眼球光学系	眼球光学系について学ぶ。
7	屈折の光学	遠視、近視について学ぶ。
8		乱視について学ぶ。
9		他覚的屈折検査について学ぶ。
10		自覚的屈折検査について学ぶ。
11	調節について	調節機能、調節検査について学ぶ。
12	眼鏡・コンタクト	眼鏡・コンタクトレンズについて学ぶ。
13	屈折矯正術	屈折矯正術について学ぶ。
14	筆記試験	筆記試験を行う。
15	振り返り・まとめ	振り返り・まとめを行う。

科目名	生理光学基礎演習	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	光やレンズの性質の理解を深め、視覚の情報処理過程における眼球光学系の役割を理解することを目的とする。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・グループでの演習で、光の性質、屈折の原理を学習する。実際に眼球光学模型や光学機器を用い、光の性質とレンズの性質の理解を深め、視覚の情報処理過程における眼球光学系の役割を学習する。
授業回数	8回	
授業形態	演習	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位	・レンズの単位と作用が説明できる。 ・プリズムの作用と単位が理解できる。 ・眼球の光学的役割と屈折異常が理解できる。
授業担当者	☆太田 陸 佐野 智久	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献		
評価方法	レポート	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	光学の基礎・眼球光学	光学の基礎・眼球光学系について学ぶ。
2	レンズのはたらき	レンズのはたらきについて学ぶ。
3	屈折の原理・検査	屈折の原理・検査について学ぶ。
4	プリズムのはたらき	プリズムのはたらきについて学ぶ。
5	調節検査	調節検査について学ぶ。
6	眼鏡・コンタクト	眼鏡・コンタクトについて学ぶ。
7	レポート作成	まとめを行う。
8		レポート作成を行う。

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	公衆衛生概論	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	公衆衛生学の基本的事項を理解するとともに視能訓練士が果たすべき役割について考える力を培うことを目的とする。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	公衆衛生学は、社会や集団を対象にした医学である。個人の健康を対象にした臨床医学に対し、社会全体から心身の疾病の予防や健康増進に係わる。保健医療、社会福祉、環境保全など多岐にわたる内容から構成されている。基本的事項を理解するとともに視能訓練士が果たすべき役割について考える力を培うことを目標とする。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位	・地域で生活する人々の疾病予防及び健康増進のための環境整備や健康管理を地域社会全体の視点で捉えるという公衆衛生的な考え方を身につける。
授業担当者	☆荒尾 浩子 太田 陸	・医療・福祉制度について概説できる。 ・健康・疾病・障害と生活の関わりの基礎的な概念を習得する。
実務家教員	○	保健師及び看護学校講師としての実務経験
使用テキスト 参考文献	公衆衛生がみえる2021-2022(MEDIC MEDIA)	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	公衆衛生の概念・健康の概念	公衆衛生、健康の概念について学ぶ。
2	健康・疾病・行動に関わる統計資料	健康・疾病・行動にかかわる統計資料について学ぶ。
3	健康科学の研究法(集団を扱う医学・集団検診と疫学)	健康科学の研究法について学ぶ。
4	健康と環境	健康と環境について学ぶ。
5	生活習慣病予防と健康増進	生活習慣病予防と健康増進について学ぶ。
6	感染症対策	感染症対策について学ぶ。
7	保健・医療・福祉の制度	小テストを行う。保健・医療・福祉の制度について学ぶ。
8	産業保健、全体のまとめ	産業保健について学ぶ。全体のまとめを行う。

科目名	視覚リハビリテーション概論	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	障害受容の心理や地域社会におけるリハビリテーション職種としての役割について理解する。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション職種である視能訓練士が担う保健医療福祉の推進について学ぶ。 ・視能訓練士が知っておくべき障害受容の心理や地域社会におけるリハビリテーション職種としての役割について理解する。 ・ロービジョンケアの具体的な手法について学ぶ。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害の定義と範囲について説明できる。 ・ロービジョンケアにおける視能訓練士の役割を理解できる。 ・視覚補助具の使い方を説明できる。 ・拡大鏡の選定の方法や計算が出来る。
授業担当者	太田 陸	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学第2版(文光堂)、視能矯正学第3版(金原出版)	
評価方法	筆記試験	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	ロービジョンの定義	ロービジョンの定義、障害程度等級について学ぶ。
2	視覚障害の推移と原因	視覚障害の推移と原因について学ぶ。
3	リハビリテーション	リハビリテーションについて学ぶ。
4	拡大鏡・単眼鏡	拡大鏡・単眼鏡について学ぶ。
5		拡大鏡・単眼鏡の計算について学ぶ。
6	視覚補助具・日常生活用具	視覚補助具・日常生活用具について学ぶ。
7	筆記試験	筆記試験を行う。
8	振り返り・まとめ	振り返り・まとめを行う。

科目名	視能訓練士の役割	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・視能訓練士の成り立ちや職種にまつわる関係法規を学ぶ。
学年	1年	
コース	一	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・医学は独立して行われるものではなく、地域社会の関係諸機関との連携が重要である。医療における他職種との連携・役割、地域社会における様々なサービスに関して視能訓練士として知っておくべき関係法規についても学ぶ。 また、保健医療福祉の推進のための視能訓練士の役割を理解する。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位	・医療における法規と視能訓練士の役割を理解する。 教育における法規と視能訓練士の役割を理解する。 ・福祉における法規と視能訓練士の役割を理解する。
授業担当者	山村 慈	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂)・眼科診療と関連法規(中山書店)	
評価方法	筆記試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	視能訓練士の役割とは	視能訓練士の社会的な役割について
2	視能訓練士法①	視能訓練士の成り立ちと視能訓練士法のできるまで
3	視能訓練士法②	視能訓練士法について
4	医療に関する法規	眼科医療に関するコ・メディカル職種の役割 療に関する法規と視能訓練士の役割 母子保健法・高齢者の医療における視能訓練士の役割
5	医療以外の関係法規	学校保健安全法、労働安全衛生法、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉における視能訓練士の役割について
6	医薬品等に関する法規	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律について
7	テスト	講義の理解度の確認
8	テストの見直し&まとめ	テストの解説と講義の総まとめ

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	基礎視能矯正学1	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	両眼を使って物を見るための仕組み、動かす仕組みを理解し、両眼視機能の基礎を学ぶ
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	物を見るための仕組み、眼を動かすための仕組みについて学び、弱視、斜視の基礎となる両眼視機能の基礎を学ぶ。 正常な視機能の発達と両眼視機能の発達を学ぶ。 また、障がいが生じる理論を概観し、視能矯正学の基本的知識と理論を身につける。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位(15時数)	斜視を検出するための必要な検査法を理解する 両眼視機能を理解する
授業担当者	佐野 智久	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂)	
評価方法	筆記試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	眼位	両眼の眼の位置(眼位)について学ぶ
2	重複眼	両眼での物の見え方の仕組みを学ぶ
3	立体視	両眼視を理解し、立体視について学ぶ
4	外眼筋の作用	各外眼筋の運動作用について学ぶ
5	眼球運動	両眼での眼球運動の法則、動きについて学ぶ
6	輻湊AC/A比	両眼で近くを見る時の眼球運動、法則を学ぶ
7	テスト	今まで学んだ両眼視についてテストにて確認
8	両眼視まとめ	テストで理解度を確認して、わからないところを再度学びなおす

科目名	基礎視能矯正学2	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・弱視について、定義・病態・分類・検査・訓練等を理解する。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・弱視の分類、必要な検査を説明する。 ・眼振、心因性視力障害に関して説明する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・弱視の鑑別法を理解する。 ・弱視の検出に必要な検査法を理解する。 ・心因性視力障害、眼振を理解する。
授業担当者	山村 慈	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂)・視能訓練学(医学書院)・視能矯正学(金原出版)	
評価方法	筆記試験	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	弱視①	弱視の定義
2	弱視②	弱視の病態と分類(総論)
3	弱視③	弱視の分類(各論)
4	弱視④	弱視の診断と検査
5	弱視⑤	弱視の治療方針・治療方法
6	弱視⑥	弱視についての総まとめ
7	弱視⑦	遮閉法(弱視治療矯正)
8	弱視⑧	その他の弱視治療矯正
9	弱視⑨	弱視治療矯正についての総まとめ
10	心因性視能障がい ①	心因性視能障がいの発生機序・検査
11	心因性視能障がい ②	心因性視能障がいの治療・対応について
12	眼振①	眼振の発生機序・検査
13	眼振②	眼振の治療・対応について
14	テスト	講義の理解度の確認
15	テストの見直し& まとめ	テストの解説と講義の総まとめ

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	基礎神経眼科学	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	神経眼科学の基礎となる解剖や生理学を学ぶ。 外眼筋の作用と運動についての基礎を学ぶ。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	神経眼科学の基礎となる神経や眼筋の構造と機能を学ぶ。眼球運動経路の解剖・生理の基礎を理解し、外眼筋の作用と眼球運動の神経眼科学的基礎事項を学習する。外眼筋の作用方向に関して説明する。視神経疾患に関して説明する。外眼筋麻痺に関して説明する。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位(15時数)	外眼筋の作用方向を理解する。 核上性、核下性疾患を理解する。
授業担当者	佐野 智久	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂) 視能矯正学 第3版(金原出版)	
評価方法	筆記試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	外眼筋	外眼筋の解剖、作用について学ぶ
2	脳神経	脳神経の基礎、眼科に関わる脳神経について学ぶ
3	外眼筋麻痺	動眼神経、外転神経、滑車神経の麻痺について学ぶ
4	核上性麻痺	動眼神経核、外転神経核、滑車神経核の麻痺について学ぶ
5	核下性麻痺	核下性の麻痺について学ぶ
6	視神経疾患	視神経の解剖、疾患について学ぶ
7	対光反射	対光反射に関わる解剖、自律神経について学ぶ
8	テストと振り返り	神経眼科学の基礎のテストと振り返り

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	基礎視能矯正学演習1	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	眼科の検査の基本となる、視力検査および屈折検査を理解する
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	視力検査および屈折検査について演習を通して理解を深め、実践力を身につける。また、調節機能、明視域についても理解する。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位(30時数)	オートレフケラトメーターの測定ができる。 屈折矯正の理論が説明できる。
授業担当者	☆佐野 智久 太田 陸	円柱レンズ、乱視の屈折が理解できる。 調節検査の理論が理解できる。
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学第2版(文光堂)	
評価方法	レポート提出	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	屈折検査	自覚的、他覚的屈折検査について学ぶ
2	オートレフ	実際にオートレフメータを操作してみる
3	オートレフ	より実践的な内容でオートレフメータを理解する
4	視力検査	視力検査に基本を学ぶ
5	視力検査	裸眼視力検査を実際に測定し学ぶ
6	レンズメーター	レンズメーターの基本と操作を学ぶ
7	レンズメーター	レンズメーターのいろいろな応用的な使い方を学ぶ
8	視力検査	裸眼視力検査を実際に測定し、視力検査の理解を深める
9	視力検査	矯正視力検査の基本を学ぶ
10	視力検査	矯正視力検査をたくさん測定し、理解を深める
11	調節検査	調節について理解し、機器の種類を学ぶ
12	調節検査	調節について、実際に測定してみる。
13	検査のまとめ	眼科の検査の基本となる、視力検査および屈折検査のまとめ
14	レポート作成	視力検査、屈折検査についてのレポートをまとめる
15	振り返り	眼科検査の基本となる視力検査、屈折検査の見直し

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	基礎視能矯正学演習2	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	両眼視機能の検査を総合的に実践できるようにする
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	正常な両眼視機能検査、異常な両眼視機能、眼位の検査について理解する、視能矯正に必要な基礎知識を実践できるよう機器を用いた演習をグループに分かれて行う。演習は、原則2時間続きで行う
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位(30時数)	種々の立体視検査の理論と特徴が理解できる。 大型弱視鏡の基本的な検査を適切に行うことができる。 網膜対応検査の特徴を理解し、異常の深さを判断できる。
授業担当者	☆佐野 智久 山村 慈 太田 陸	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学第2版(文光堂) 眼科検査法ハンドブック(医学書院) 視能検査学(医学書院)	
評価方法	レポート提出	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	両眼視機能	両眼視機能の理論を学ぶ
2	大型弱視鏡	大型弱視鏡の基本的な操作を学ぶ
3	大型弱視鏡	大型弱視鏡の検査項目を学ぶ
4	立体視検査	眼鏡などの道具を使わずにできる立体視検査を学ぶ
5	立体視検査	両眼を分離して行う立体視検査について学ぶ
6	網膜対応検査	バゴリニー線条グラスを使った網膜対応検査を学ぶ
7	網膜対応検査	ワース4灯計を使った網膜対応検査を学ぶ
8	両眼視機能検査	大型弱視鏡、立体視検査、網膜対応検査の基礎を再確認する
9	大型弱視鏡	大型弱視鏡での同時視、融像、立体視検査を学ぶ
10	大型弱視鏡	大型弱視鏡での同時視、融像、立体視検査をより深める
11	残像検査	残像試験、残像ひきとり試験、コージナトルについて学ぶ
12	網膜対応検査	異常網膜対応での網膜対応検査について学ぶ
13	ハブロスコープ	位相差ハブロスコープについて学ぶ
14	レポート作成	両眼視機能検査についてまとめる
15	検査のまとめ	両眼視機能検査について検査結果を総合的に判断できるように復習する

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	基礎視能矯正学3	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	総合的に視能訓練を構築できるか学習する
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	視能矯正の理念、歴史など視能矯正の枠組みについて学習する。また、系統的な視能矯正を構築できる能力を養う。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位(30時数)	視能矯正の理念が理解できる。 問題指向型医療を説明できる。 インフォームドコンセントとは何か説明できる。
授業担当者	☆星野 貴大 佐野 智久	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂)	
評価方法	レポート提出	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	視能矯正について	視能矯正の基礎について学ぶ
2	視覚障害について	視覚障害の基礎について学ぶ
3	検査の組み立て	眼科の基本検査の検査の組み立て方を学ぶ
4	検査の組み立て	視野検査の検査の組み立て方を学ぶ
5	検査の組み立て	眼位、眼球運動検査の組み立て方を学ぶ
6	検査の組み立て	両眼視機能検査の組み立て方を学ぶ
7	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントについて学ぶ
8	総合的視能矯正	先天的疾患についての視能矯正を学ぶ
9	総合的視能矯正	後天的疾患についての視能矯正を学ぶ
10	総合的視能矯正	弱視疾患についての視能矯正を学ぶ
11	総合的視能矯正	斜視疾患についての視能矯正を学ぶ
12	総合的視能矯正	病名からどのような視能矯正が必要かを学ぶ
13	総合的視能矯正	眼の状態からどのような視能矯正が必要かを学ぶ
14	系統的視能矯正	眼科疾患からの検査の組み立て方を学ぶ
15	系統的視能矯正	眼に関わる全身疾患からの検査の組み立て方を学ぶ

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	視覚生理学	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	眼の光学系、視覚伝導系、運動系からなる視覚系および電気生理について学び、視能訓練士として必要な知識を身につける。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	視覚は、眼の光学系・視覚伝達系及び目の運動系(眼球運動・瞳孔運動・調節・開閉運動)からなり、脳で統合される情報処理機構であることを統合的に理解し、視覚経路の生理・解剖、視覚生理学の基礎を学習する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	<ul style="list-style-type: none"> ・視力と網膜の関係について説明できる ・色の知覚、異常について説明できる ・視路と視野の関係を説明できる ・視野、視野異常について説明できる ・明順応、暗順応について説明できる
授業担当者	☆星野 貴大 太田 陸	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学第2版(文光堂)、眼科検査ガイド第2版(文光堂)	
評価方法	筆記試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	視覚生理の基礎	視覚生理の基礎について学ぶ。
2		視覚の成り立ちについて学ぶ。
3	視野	視野について学ぶ。
4		視野検査について学ぶ。
5		視野異常について学ぶ。
6	色覚	色覚、色覚異常について学ぶ。
7		色覚検査法について学ぶ。
8		色覚異常者への検査のアプローチ、結果の読み方について学ぶ。
9	光覚	光覚、光覚検査について学ぶ。
10	特殊な視力検査	対数視力について学ぶ。
11	電気生理の基礎知識	電気生理の基礎知識について学ぶ。
12	眼科における電気生理検査	電気生理検査法について学ぶ。
13		電気生理検査の対象疾患について学ぶ。
14	筆記試験	筆記試験を行う。
15	振り返り・まとめ	振り返り・まとめを行う。

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	視能検査学	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・眼科医師や視能訓練士が関わる眼科一般検査を学ぶ。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・種々の眼科一般検査の原理と目的を学習する。また、それぞれの機器の検査結果の分析、評価の方法を学ぶ。また、検査結果から眼疾病を同定できる専門的知識の理解を身につける。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・種々の眼科検査の原理と機能を理解する。 ・眼科の専門職としての自覚と、職業倫理を理解する。 ・結果の分析から眼疾病を同定する理論を理解する。
授業担当者	山村 慈	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂)・視能検査学(医学書院)・眼科検査ガイド(文光堂)	
評価方法	筆記試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	外眼部検査	瞼裂幅測定・眼瞼挙筋検査・眼球突出検査
2	細隙灯顕微鏡検査と撮影	5種7検査法+フレアメーター
3	角膜検査	ケラト・ブラチド円板・フォトケラトスコープ・スペキュラーマイクロスコープ・前眼部OCT・オーブスキャン
4	涙液検査	シルマー試験・綿糸法・涙液メニスカス検査・BUT検査
5	眼圧検査	NCT・トノペン・アイケア・Goldmann
6	隅角検査	細隙灯顕微鏡検査・前眼部OCT・UBM
7	眼底検査	倒像鏡・直像鏡・細隙灯顕微鏡検査
8	眼底写真撮影	無散瞳眼底カメラ・散瞳眼底カメラ・手持ち眼底カメラ
9	眼底画像検査: FA,IA,AF	散瞳眼底カメラ・HRA
10	眼底画像検査:OCT	OCT・OCTA
11	超音波検査	Bモード・UBM
12	眼軸長検査	非接触検査・接触検査(Aモード)
13	眼窩画像検査	X線・CT・MRI
14	外眼部写真撮影と 筆記試験	外眼部写真撮影(デジカメ・手持ちカメラ)・筆記試験
15	テストの見直し& まとめ	テストの解説と講義の総まとめ

科目名	視能検査学演習	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・視能検査学で学んだ検査の中で、演習可能な検査をし、技術を学習する。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・視能訓練士が行う眼科一般検査を中心に知識・技術を学習し、グループでの演習により実践的な技能を身につける。 また、検査結果の適切な評価の仕方も修得する。 演習は原則2時間続きで行う。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・眼科一般検査の説明ができる。 ・眼科一般検査を実際に行うことができる。 ・結果を分析することができる。
授業担当者	☆山村 慈 星野 貴大	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	眼科検査学講義時の配布資料 めざせ検査の達人(メディカ出版) 眼科検査法40(メディカ出版) 眼科検査ガイド(文光堂)	
評価方法	レポート提出、授業態度	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	科目概要・外眼部検査	瞼裂幅測定・眼瞼挙筋検査・眼球突出検査
2	外眼部写真撮影	デジカメ・手持ちカメラ
3	細隙灯顕微鏡検査と撮影	5種7検査法+フレアメーター
4	角膜検査	ケラト・スペキュラーマイクロスコープ
5	涙液検査	シルマー試験・綿糸法
6	眼圧検査	NCT・トノペン
7	OCT検査①	OCT(黄斑)
8	OCT検査②	OCT(視神経)
9	眼底検査①	直像鏡
10	眼底検査②	倒像鏡・細隙灯顕微鏡検査
11	眼底写真撮影①	無散瞳眼底カメラ・手持ち眼底カメラ
12	眼底写真撮影②	散瞳眼底カメラ
13	超音波検査①	Aモード
14	超音波検査②	Bモード
15	演習の振り返り	レポート作成

科目名	生理光学演習	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	生理光学的矯正を学習し、演習によって理論を理解し、測定技術を身につけることを目標とする。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	実践に必要な生理学的検査他覚的屈折矯正、自覚的屈折矯正、レンズメーターなど生理光学的矯正を学習し、演習によって理論を理解し測定技術を身につけることを目標とする。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	<ul style="list-style-type: none"> ・自覚的屈折検査の理論を理解し測定することができる。 ・他覚的屈折検査の理論を理解し測定することができる。 ・レンズメーターで種々の眼鏡の測定ができる。
授業担当者	☆太田 陸 山村 慈佐野 智久	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学第2版(文光堂)、眼科検査ガイド第2版(文光堂)	
評価方法	演習の習得、授業態度で総合的に評価	
講義内容		
90分/コマ	テーマ	内容
1	自覚的屈折検査 (球面レンズ)	球面レンズについて学ぶ。
2		球面レンズを用いた屈折検査について学ぶ。
3	自覚的屈折検査 (乱視表)	乱視表について学ぶ。
4		乱視表を用いた乱視矯正について学ぶ。
5	自覚的屈折検査 (クロスシリン ダー)	クロスシリンダーについて学ぶ。
6		クロスシリンダーを用いた乱視矯正について学ぶ。
7	他覚的屈折検査	オートレフラクトメータについて学ぶ。
8		検影法について学ぶ。
9	調節機能検査	老視について学ぶ。
10		石原式近点計について学ぶ。
11	レンズメーター	オートレンズメーターについて学ぶ。
12		マニュアルレンズメーターについて学ぶ。
13	実技試験	実技試験を行う。
14	筆記試験	筆記試験を行う。
15	振り返り・まとめ	振り返り・まとめを行う。

科目名	視覚生理学演習	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視覚生理学的な種々の検査を演習し、実践力と評価方法の修得を目的とする。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚生理学的な種々の検査を演習し、実践力と評価の仕方を修得する。 ・電気生理学的検査の理論と実践、評価の方法を学習する。特殊な視力検査の方法と評価を学習する。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	<ul style="list-style-type: none"> ・異常のある視野測定ができる。 ・特殊な視力測定の方法と評価の仕方を理解する。 ・電気生理学的検査の評価が出来る。
授業担当者	☆太田 陸 星野 貴大	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学第2版(文光堂)、眼科検査ガイド第2版(文光堂)	
評価方法	演習の習得、授業態度で総合的に評価	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	特殊な視力検査	乳幼児の視力検査について学ぶ。
2		コントラスト感度について学ぶ。
3	色覚検査	仮性同色表について学ぶ
4		色相配列検査、アノロスコープについて学ぶ
5	静的視野測定、 中心視野検査、 中心フリッカ試験	静的視野測定について学ぶ。
6		中心視野検査、フリッカ試験について学ぶ。
7	動的量的視野検査	正常者の動的視野検査について学ぶ。
8		異常視野の動的視野検査について学ぶ。
9	電気生理検査	ERGについて学ぶ。
10		VEPIについて学ぶ。
11		EOGについて学ぶ。
12		ENGについて学ぶ。
13	実技試験	実技試験を行う。
14	筆記試験	筆記試験を行う。
15	振り返り・まとめ	振り返り・まとめを行う。

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	神経眼科学	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	神経眼科の解剖基礎より疾患までを理解する。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	脳神経の構造と視路及び眼球運動経路の解剖・生理を理解し、視交叉より末梢の視路障害、核上性障害、視神経・外側膝状体・皮質障害に関して学習する。 対光反射の経路を理解し、主訴や検査より疾患へと繋げることができる。講義の中で、実際に瞳孔を観察し理解を深める。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位(15時数)	神経眼科の解剖基礎より疾患までを理解する。 対光反射の経路を理解し瞳孔における疾患を理解する。 核上性疾患・核下性疾患を経路と共に理解する。 視神経疾患を理解する。
授業担当者	☆飯田 文人 佐野 智久	
実務家教員	○	医師(眼科専門医)として臨床における実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)	
評価方法	授業態度、出席状況および筆記試験の成績で総合評価する	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	瞳孔について	瞳孔基礎と解剖、対光反射について学ぶ
2	瞳孔について	瞳孔疾患について学ぶ
3	核上性の基礎	核上性の基礎について学ぶ
4	核上性の基礎	核上性の解剖について学ぶ
5	核上性の疾患	核上性の水平眼球運動の解剖、疾患について学ぶ
6	核上性の疾患	核上性の垂直眼球運動の解剖、疾患について学ぶ
7	視神経について	視神経の基礎と解剖について学ぶ
8	視神経について	視神経疾患について学ぶ

科目名	眼疾病学	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・眼科における眼疾患と全身病に伴う眼症状について学習する。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・眼科的疾患及び眼科関連全身疾患について解剖学的部位に系統立てて学習し、視能訓練士の業務を理論的に理解できるようにする。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・眼疾患における原因、症状、所見、必要な検査と結果、治療を総合的な知識として習得する。
授業担当者	☆中嶋 茂雄 山村 慈	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂)・標準眼科学 第14版(医学書院)	
評価方法	筆記試験	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	眼瞼	眼瞼下垂、眼瞼内反、兔眼、麦粒腫、霰粒腫、睫毛乱生
2	涙器	鼻涙管閉塞、涙囊炎、涙腺炎、涙液分泌減少症、眼乾燥症
3	結膜	結膜炎、翼状片
4	角膜・強膜	角膜炎、角膜症、角膜感染症、角膜ジストロフィ、円錐角膜、角膜白斑、老人環、強膜炎
5	水晶体	白内障、水晶体位置異常
6	緑内障	原発開放隅角緑内障・正常眼圧緑内障、原発閉塞隅角緑内障、急性緑内障発作、発達緑内障
7	ぶどう膜①	ぶどう膜炎、虹彩毛様体炎、ベーチェット病
8	ぶどう膜②	原田病、交感性、眼炎、ぶどう膜の先天異常
9	網膜の総論	網膜の解剖、検査、異常所見、治療
10	網膜の各論 I	網膜の変性、黄斑疾患
11	網膜の各論 II	RD、小児眼底疾患
12	眼窩疾患	眼窩の解剖・検査・異常所見・治療
13	眼外傷と眼科救急、 プライマリケア	異物・裂傷・外傷や救急疾患
14	全身病と目	全身病とそれに伴う眼疾患
15	テスト	テスト

科目名	視能障害学演習1	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された情報の疾患から分類方法を予測し、必要な検査を構築する。 ・構築した検査を実践する。 ・検査結果から考察する。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・種々の眼疾患によって障害される視機能についての検査法や治療による改善について学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	<ul style="list-style-type: none"> ・眼疾病と検査方法、評価の方法を理解する。 ・適切な検査説明ができる。 ・検査結果の評価が出来る。
授業担当者	☆星野 貴大 山村 慈	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	眼疾病学・眼科検査学・眼科検査学演習の配布資料 めがせ検査の達人(メディカ出版) 眼科検査法40(メディカ出版)	
評価方法	実践力、レポート、授業態度、筆記テストにより総合的に評価する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	視能障害学演習1の	授業の進め方の説明とグループ分け
2	白内障①	配布資料の情報で、どのような検査が必要か考察&実践
3	白内障②	考察した検査の実践(明室検査)
4	白内障③	考察した検査の実践(暗室検査)
5	白内障④	実践した検査結果の振り返り
6	緑内障①	配布資料の情報で、どのような検査が必要か考察&実践
7	緑内障②	考察した検査の実践(明室検査)
8	緑内障③	考察した検査の実践(暗室検査)
9	緑内障④	実践した検査結果の振り返り
10	糖尿病①	配布資料の情報で、どのような検査が必要か考察&実践
11	糖尿病②	考察した検査の実践(明室検査)
12	糖尿病③	考察した検査の実践(暗室検査①)
13	糖尿病④	考察した検査の実践(暗室検査②)
14	糖尿病⑤	実践した検査結果の振り返り
15	振り返り・まとめ	全体の振り返りをしレポートを作成

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	視能障害学演習2	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	<ul style="list-style-type: none"> ・定時された情報から疾患を予測し、必要な検査を構築する。 ・構築した検査を実践する。 ・検査結果から考察する。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・斜視や弱視の両眼視機能障害について、今まで学んだ知識を総合的に融合し理解を深める。問題解決の手法を用いた演習で種々の障害の実践力を身につける。
授業回数	8回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位	<ul style="list-style-type: none"> ・眼球運動検査の理論と方法、評価の仕方が説明できる。 ・網膜対応検査の理論と方法、評価の仕方が説明できる。
授業担当者	☆星野 貴大 山村 慈	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	眼疾病学・眼科検査学・眼科検査学演習の配布資料 めがせ検査の達人(メディカ出版) 眼科検査法40(メディカ出版)	
評価方法	実践力、レポート、授業態度、筆記テストにより総合的に評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	視能障害学演習2の理論	授業の進め方の説明とグループ分け
2	網膜疾患①	配布資料の情報で、どのような検査が必要か考察&実践
3	網膜疾患②	考察した検査の実践
4	網膜疾患③	実践した検査結果の振り返り
5	救急疾患①	配布資料の情報で、どのような検査が必要か考察&実践
6	救急疾患②	考察した検査の実践
7	救急疾患③	実践した検査結果の振り返り
8	振り返り・まとめ	全体の振り返りのレポートを作成

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	弱視・斜視訓練学	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視能訓練士として弱視・斜視の訓練に必要な検査方法および訓練法の理論を理解ことを目的とする。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・弱視・斜視の訓練に必要な検査方法および訓練法の理論と実践を学ぶ。 ・光学的矯正方法、大型弱視鏡による訓練、大型弱視鏡以外の訓練と検査法の理論を理解する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・光学的治療法の理論が理解できる。 ・種々の遮閉法の理論と方法が理解できる。 ・大型弱視鏡による訓練法が理解できる。 ・固視異常の訓練法が理解できる。
授業担当者	太田 陸	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学第2版(文光堂)、視能矯正学第3版(金原出版)	
評価方法	筆記試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	斜視の基礎知識	斜視の定義、病因について学ぶ。
2		斜視の分類について学ぶ。
3	眼位検査	単眼性眼位検査について学ぶ。
4		両眼性眼位検査について学ぶ。
5	両眼視機能検査	立体視検査について学ぶ。
6		大型弱視鏡検査について学ぶ。
7		その他両眼視機能検査について学ぶ。
8	眼球運動検査	視診による眼球運動検査について学ぶ。
9		Hess赤緑試験について学ぶ。
10	斜視の光学矯正	斜視と屈折異常について学ぶ。
11		斜視とプリズムについて学ぶ。
12	斜視視能矯正	大型弱視鏡による視能訓練について学ぶ。
13		大型弱視鏡以外の視能訓練について学ぶ。
14	筆記試験	筆記試験を行う。
15	振り返り・まとめ	振り返り・まとめを行う。
16	病院見学	斜視手術を行っている施設を見学し、斜視治療について学ぶ。

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	視能矯正学1	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	共同性斜視・麻痺性斜視の理解をする
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	共同性斜視・麻痺性斜視の特徴を説明する 共同性斜視・麻痺性斜視の鑑別に必要な検査法を説明する
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位(30時数)	麻痺性斜視と共同性斜視の特徴を理解する 鑑別のための検査法を理解する 特殊斜視に関して理解する
授業担当者	佐野 智久	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂) 視能矯正学 第3版(金原出版)	
評価方法	筆記試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	共同性斜視	先天性内斜視について学ぶ
2	共同性斜視	後天性内斜視について学ぶ
3	共同性斜視	外斜視について学ぶ
4	共同性斜視	その他の斜視について学ぶ
5	麻痺性斜視	動眼神経麻痺の斜視について学ぶ
6	麻痺性斜視	滑車神経麻痺の斜視について学ぶ
7	麻痺性斜視	外転神経麻痺の斜視について学ぶ
8	麻痺性斜視	麻痺性斜視についてのまとめ
9	筋原性斜視	筋原性斜視について学ぶ
10	機械的斜視	機械的な斜視について学ぶ
11	斜視手術	斜視手術の基本について学ぶ
12	斜視手術	斜視手術について具体的な方法ややり方について学ぶ
13	ボツリヌス	眼科領域でのボツリヌス菌の使用について学ぶ
14	テスト	斜視についてのテスト
15	斜視まとめ	斜視を総合的にとらえられるようにまとめる

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	視能矯正学2	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・医療倫理に則し、過去の医療事故から、どのように視能矯正という仕事と向き合うかを学ぶ。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・視能障害に対する矯正、訓練、指導および管理の立場から必要な知識と技術を習得する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・視能矯正の科学的アプローチが理解できる。 ・問題指向型システムの管理が出来る。 ・リスクマネジメントの方法が説明できる。 ・感染症のリスクと予防の方法が理解できる。
授業担当者	山村 慈	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂)	
評価方法	筆記試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	視能矯正学2の説明	視能矯正の理念・歴史
2	視能矯正の展開	高度医療化と視能矯正
3	視能訓練士の倫理	医療倫理と視能訓練士の役割
4	リスボン宣言 視能訓練士の教育	リスボン宣言の意義 今までの教育と今後の教育に必要なこと
5	診療録	法律や記載方法等について
6	インシデント・アクシ デント①	様々な場面を想定したインシデント・アクシデント
7	インシデント・アクシ デント②	実症例について考察
8	救急対応と処置	アナフィラキシー・心肺蘇生法・AEDについて
9	diplopia test ①	単眼複視・両眼複視の違い
10	diplopia test ②	種々の検査方法
11	プリズム処方	偏位の矯正
12	遮光眼鏡①	ロービジョン・高機能障害への対応
13	遮光眼鏡②	体験して確認
14	テスト	講義の理解度の確認
15	テストの見直し& まとめ	テストの解説と講義の総まとめ

科目名	視能訓練学演習1	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視覚発達の促進や種々の視能障害に対する矯正、訓練、指導を科学的根拠に基づいて行う技術を修得する。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・視覚発達の促進や種々の視能障害に対する矯正、訓練、指導を科学的根拠に基づいて行う技術を学習する。 ・業務の管理について理解し、適切な視能訓練を構築することを学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・種々の検査を組み合わせると視能障害を同定することが出来る。 ・異常の程度を理解した視能訓練を構築することが出来る。
授業担当者	☆太田 陸 山村 慈佐野 智久	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学第2版(文光堂)、眼科検査ガイド第2版(文光堂)、視能矯正学第3版(金原出版)	
評価方法	演習の習得、授業態度で総合的に評価	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	遮蔽試験	カバーテスト、カバー・アンカバーテストについて学ぶ。
2		プリズムカバーテストについて学ぶ。
3	眼球運動検査	視診による眼球運動検査について学ぶ。
4		Hess赤緑試験について学ぶ
5	両眼視機能検査	両眼視機能検査について学ぶ。
6		立体視検査について学ぶ。
7	網膜対応検査	赤ガラス法、Bagolini線条検査、Worth4灯試験について学ぶ
8		残像試験、ハプロスコープについて学ぶ。
9	大型弱視鏡	同時視、融像、立体視の測定について学ぶ。
10		回旋偏位の測定、網膜対応検査について学ぶ。
11	斜視流れ	斜視患者に対する検査の流れを学ぶ。
12		斜視患者のロールプレイを行う。
13	実技試験	実技試験を行う。
14	筆記試験	筆記試験を行う。
15	振り返り・まとめ	振り返り・まとめを行う。

シラバスデータ		2021/4/1
科目名	視能訓練学演習2	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・斜視弱視の患児を想定し、問診から検査、疾患予測、治療、訓練を一連の流れで考えることができるようにする。 また、清潔不潔の概念、車椅子操作、認知力低下についての知識を深める。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・眼科チームの一員として視能訓練を行うスキルを身につける。また、視能訓練士として必要な感染症に対する対応と救急対応についても学習する。実際の現場を想定したロールプレイ演習を行うことによって理解を深める。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・今まで個々に習得した検査や訓練の技術を総合することが出来る。 ・ロールプレイを通して患者の立場、視能訓練士の立場、他の医療スタッフの立場を体験する。 ・ロールプレイを見て総合的な評価をすることができる。
授業担当者	☆山村 慈星野 貴大 三嶋 秀子山田 英介	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第2版(文光堂)	
評価方法	レポート提出、演習態度	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	視能訓練学演習2の 説明	グループ分けと症例の提示
2	清潔不潔の概念	感染症の予防の観点からの手洗い、器具の消毒
3	弱視患者のロールブ レイ①	提示された症例から必要な検査を考える
4	弱視患者のロールブ レイ②	必要な検査を演習
5	弱視患者のロールブ レイ③	検査結果から疾患を絞る
6	弱視患者のロールブ レイ④	治療・訓練を考察
7	弱視患者のロールブ レイ⑤	まとめ・カルテ整理
8	斜視患者のロールブ レイ①	提示された症例から必要な検査を考える
9	車椅子①	視能訓練士に必要な車椅子の理論
10	車椅子②	視能訓練士に必要な車椅子の操作
11	斜視患者のロールブ レイ②	必要な検査を演習
12	斜視患者のロールブ レイ③	検査結果から疾患を絞る
13	斜視患者のロールブ レイ④	治療・訓練を考察
14	斜視患者のロールブ レイ⑤	まとめ・カルテ整理
15	まとめ	演習日誌・カルテを作成し提出

科目名	臨地実習	
年度	2021年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・医療現場で実際の患者様に触れることにより、接し方・検査の仕方などを養う。 また、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期と分けることにより、様々な施設での経験を積む。
学年	1年	
コース	一	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	・基本的な視能矯正の実践技術の能力を養い、患者様や家族との人間関係から共感的態度を学ぶ。 また、医療チームの一員としての責任と協調、自覚を養う。
授業回数	63日(495時間)	
授業形態	学外実習	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	11単位	・医療に対する心得と医療人としての責任感を養う。 医療機関の社会的役割とそこにおける視能訓練士の果たすべき役割について学ぶ。
授業担当者	山村 慈 佐野 智久 太田 陸 星野 貴大	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献		
評価方法	実習評価表をもとに事前事後指導・巡回時の様子など、総合的に判断する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
	臨地実習	1. 実習期間をⅢ期に分け、約3か月余り実習をする。 Ⅰ期(10/1～10/31) Ⅱ期(11/1～11/30) Ⅲ期(12/1～1月中旬) 2. 総合病院や医院等、様々な施設を経験することにより、疾患やシステムの違い等を学ぶ。 3. 問診、検査指示、検査結果、治療の流れを学ぶ。 4. 検査技術のみでなく、コミュニケーションスキルとしての話術も学ぶ。